

茅葺き民家を活用した地域再生拠点づくりプロジェクト ～「大学と地域の連携 “新たな結”」による茅葺きワークショップ～

本学大学院システム情報工学研究科・社会工学専攻では、現場重視の教育活動の一環として、ワークショップ系科目等にてアクティブ・ラーニング（実践的な教育研究活動）を推進しています。そのなかで、SDGs との調和や Society5.0 といった新たな社会システムの構築・実現はもとより、本学が立地するつくば周辺の地域を題材に、過疎脱却を同時に目指すような包括的な地域課題解決を志向したプロジェクトにも取り組んでいます。このたび紹介するものは、次世代モビリティ等の実装が行われた社会を想定し、近未来の地域社会のあり方を提示するモデル・プロジェクトです。普遍化・一般化を目指した実証実験を推進しつつ、地域の固有性ある文化の再評価・地域社会像の構想づくり（日本の原風景ともいえる里山景観の保全や茅葺文化の継承等もふくむ）を行う意欲的な取り組みとなっています。

また、本取り組みは、学会発表や公開ワークショップでの市民への共有など実証実験の研究成果の社会還元を行いながら事業を推進しています。また社会実装の成果についても、大学と地域の連携、いわば“新たな結”による地域の拠点形成を行うことを計画しています。なお、本件プロジェクトは平成 29 年から石岡市と本学の共同研究により実施してきました。

【茅葺きワークショップ（11 月下旬実施予定）について】

本年度前半までに、学生参加型の地域創生として、茅葺民家の地域再生拠点づくりの計画や、環境整備活動を行ってきましたが、11 月下旬（2～3 週間程度）には、茨城県石岡市小屋にて茅の葺替え作業の実施を予定しています。日本に現存する茅葺き技術の流派のひとつ、トオシモノや大名ぐしなど高度な技巧が特徴的な筑波流の茅葺き作業を実施する予定です。茅葺き職人廣山美佐雄氏（87 歳。やさと茅葺屋根保存会）の指導のもと学生・住民参加による茅葺きワークショップを行います。廣山氏は、筑波流の技法を受け継ぎ、技を高めてきた現役の職人ですが、黄綬褒章（平成 27 年度）、卓越した技能者表彰（平成 24 年度、厚生労働省）などの叙勲・顕彰を受けられています。

なお、このたび用いる茅葺屋根の屋根材には、つくば市内・高エネルギー加速器研究機構内の茅場、同市内・学園の森の草地等で市民との協働により採取したススキを用います。

【計画構想中の地域再生拠点について】

過疎化には様々な要因が複雑に絡み合っており、地域毎に固有なものから遍く多くの地域に共通性のあるものまで多様な課題を抱えています。過疎問題からの脱却には、地域での活動実践における課題解決を行うなかで個別解・一般解双方を整理しながらひき出す取り組みも求められます。有効なユースケースを導くために、以下の観点・要素を取り入れることを検討しつつ、地域再生を行う拠点構築を進めています。

- ・ 地方ならではの豊かな暮らしぶりを享受できる近未来の地域社会システムを提案し、社会実装を行う共同研究拠点の構築
- ・ 社会工学専攻を中心に本学の研究者（教員・学生）の英知を集結させ、地域課題の解決を行うサテライト研究室の設置
- ・ 立地地域である八郷の里山景観・地域資源の活用や地域内外の交流の創発
- ・ Society5.0 の社会を先取的に試行する次世代モビリティや IoT・AI による空間計測・地域施設マネジメント等の最先端技術の導入

本件古民家再生では上述の要素等を織り込んだ計画を大学院生の演習の一環で作成していますが、本年度後半には、茅葺きワークショップを皮切りに実際の改修作業に着手していくこととなります。

以上



写真：当該拠点の茅葺き民家

問合わせ先

仲村 健(なかむらけん)

筑波大学・システム情報エリア支援室・プロジェクトマネージャー

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

E-mail: k.nakamura@sk.tsukuba.ac.jp

Tel: 029-853-3601